令和7年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を身に付けた児童を育成する英語教育の推進

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力 (バフォーマンステスト含む)
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用 (AIを除く)
 AIの活用
 その他

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①言語活動(授業中50%以上)の充実
(参考R5 5年:94.0%
6年:96.3%)

②授業において、児童の主体的な取組を促進する工夫(単元の課題の設定、言語活動の充実)が見られる。

未だ改善が必要な点

①学習到達目標(CAN-DOリスト)の活用について、引き続き改善の余地がある。(R6県教育課程調査 :92%)

②学習者用デジタル教科書の活用について、引き続き改善の余地がある。(R6県教育課程調査 :73%)

2. 要因分析

①県指導主事会議において、英語担当指導主事部会を開催し、課題の共有、指導助言の方向性の共通理解を図ったことで、各市町村における授業改善が進んでいると考えられる。

②各教科等授業改善プロジェクトにおいて、県内の小中学校の教職員、教育行政関係者に向けて、授業改善研修会を実施したことで、言語活動の実施、質の向上に関する意識が向上していると考えられる。

①授業参観等において、具体的な活用について、十分に指導助言する機会が少ないことが要因と考えられる。

②市町村間での活用の差があることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②「令和7年度各教科等授業改善プロジェクト」による授業改善の推進

・教師が「～させる」授業から児童生徒が「～する」授業への転換、拡充、外国語活動・外国語科の目標に迫る授業改善の一層の推進を図るため、全県に向けた授業公開、授業改善研修会を実施する。

その際、参加者(教職員)と参加指導主事が共に、自身の授業について語の情報交換会も実施する。

・授業改善推進校に対し、年間を通して英語担当指導主事(県・市町村)がチーム支援を行い、日々の授業づくりに関わる。
・学習指導案、授業改善研修会資料、授業ハイライト動画(県内教職員限定公開)を作成し、実践の成果を周知する。

(参考URL: https://gunma-boe.gsn.ed.jp/cb5189a52e719b24596b0c5e596c33df/page_20231023103724)

①小中高の校種の枠を超えた研修の推進

実践的指導力の向上を図るため、群馬県総合教育センターにて、小中高の校種の枠を超えた合同研修を行う。特別支援の視点を取り入れた授業づくり、生成AIの活用、英語での指導力向上を図るためのスキルアップ研修を行う。

○教員採用選考における加点制度の実施

一定の英語力を有する小学校教員の採用を増やし、外国語の指導の充実を図る。

令和7年度 群馬県 英語教育改善プラン

言語活動の充実を図り、積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒を育成する英語教育の推進

○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 59.2% ⇒ R7 : 60%)

目標

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、言語活動の充実が図られている。

・指導者と生徒の意識の差
(聞く15.5(R5)⇒11.9(R6)
読む 13⇒10.7
話す(やり取り)16.4⇒16
話す(発表) 8.6⇒6.6
書く 9.7⇒7.6)

②小学校の学びを生かした授業改善への意識がある。
(県教育課程調査 R6 97%)

未だ改善が必要な点

①生徒の言語活動の状況の見取りに応じた指導について改善の余地がある。

②学習者用デジタル教科書の活用について改善の余地がある。

(R6 授業で活用⇒98.7%
家庭学習の課題として活用
⇒68.8%
R6英語教育実施状況調査)

2. 要因分析

①②各教科等授業改善プロジェクトにおいて、公開授業や授業改善研修会を実施したことで、コミュニケーションにおける目的・場面・状況等の設定の具体、明確な設定の必要性について再確認し、言語活動の質が改善していると考えられる。また、授業改善研修会において、小中学校の教職員に対して講義をしたことで、互いの授業づくりについての理解が深まったと考えられる。

①学習到達目標 (CAN-DOリスト) を基にした、各単元の具体的な評価基準の設定 (具体的な姿を明確にしているかどうか) に差が見られる。

②市町村間、教師間において、活用の必要性の意識の差が大きいことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②「令和7年度各教科等授業改善プロジェクト」による授業改善の推進

・教師が「～させる」授業から児童生徒が「～する」授業への転換、拡充、外国語活動・外国語科の目標に迫る授業改善の一層の推進を図るため、全県に向けた授業公開、授業改善研修会を実施する。その際、参加者(教職員)と参加指導主事が共に、自身の授業について語る情報交換会も実施する。

・授業改善推進校に対し、年間を通して英語担当指導主事(県・市町村)がチーム支援を行い、日々の授業づくりに関わる。

・学習指導案、授業改善研修会資料、授業ハイライト動画(県内教職員限定公開)を作成し、実践の成果を周知する。

(参考URL : https://gunma-boe.gsn.ed.jp/cb5189a52e719b24596b0c5e596c33df/page_20231023103724)

①ALTが参画する授業改善の推進

各学校のALTに対して指導助言を行うため、ALTアドバイザーを派遣する。ALTとJTEを対象にした群馬県英語教育フォーラムを行う。

②②小中高の校種の枠を超えた研修の推進

実践的指導力の向上を図るため、群馬県総合教育センターにて、小中高の校種の枠を超えた合同研修を行う。特別支援の視点を取り入れた授業づくり、生成AIの活用、英語での指導力向上を図るためのスキルアップ研修を行う。

令和7年度 群馬県 英語教育改善プラン

言語活動の充実を図り、積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒を育成する英語教育の推進

目標

○CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 48.0%、B1以上 20.9% ⇒ R7 : A2以上 60%、B1以上 30%)

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①R6英語教育実施状況調査結果から、授業における、生徒の英語による言語活動の充実が図られている。
(R5:49.1%⇒R6:53.5%)
- ②教師の英語力について、改善が見られる。
(R5:20.5%⇒R6:26.4%)

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力の状況について、CEFRA2相当以上、CEFRB1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合の減少が見られる。
(R5:50.1%⇒R6:48%)
- ②パフォーマンステストの実施状況について、実施率の低下が見られる。
(R5:77.6%⇒R6:70.8%)

2. 要因分析

- ①「令和6年度新しい学びのための授業改善事業」の実施において、公開授業や各校での研修を通じて、言語活動の充実を意識した授業実践が行われたことで、授業における言語活動の状況が改善されたと考えられる。
- ②オンライン研修の希望者の増加や、スキルアップ研修の実施により、教師の指導力の改善につながったと考えられる。

- ①教師側においてCEFRに基づいた評価の理解が不十分であることが考えられる。また、評価の信頼性・妥当性を確保するための共通理解が不十分であることが考えられる。
- ②「指導と評価の一体化」について、パフォーマンステストが、日常的な指導と切り離されて実施されていることが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①「令和7年度新しい学びのための授業改善事業」による授業改善の推進
- ・外国語科の目標に即した授業の質の向上を図るため、群馬県総合教育センターと連携して、実践研究及び県内全体を対象とした公開授業及び授業研究会を実施する。
 - ・外国語の「見方・考え方」を働かせ、生徒が主体的に取り組むことができる授業実践を促進する。
 - ・目的・場面・状況を明確にした言語活動の設計を支援する。
- ②群馬県総合教育センターにおいて、小学校・中学校・高等学校の枠を超えた連携を図り、実践的な英語指導力の向上を目的とした合同研修を実施する。県内のALTアドバイザーを講師として招き、英語による授業力を高めるためのスキルアップ研修を行う。
- ①②「言語活動の質の向上」と「評価と指導の一体化の強化」の促進
- ・学校訪問等において、指導と連動した評価活動を授業の中に組み込むよう、指導主事による助言を行う。
 - ・授業改善推進員の実践研究の報告を県内全体で共有し、各校での指導改善につなげる。
- ②パフォーマンステストの実施について、各校の優れた取り組みを県内全体で共有し、評価の実践力向上を図るための実践報告の機会や事例集等の整備を行う。

群馬県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50	50.1	60	48	60					
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	25	21.6	30	20.9	30					
	授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	70	49.1	60	53.5	60					
	スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	80	77.6	80	70.8	80					
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100				
		公表（％）	100	73	100		100				
		達成状況の把握（％）	100	74.3	100		100				
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	80	77.7	80	83.6	85						
英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	65	38.6	65	34.7	60						

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	60	57.9	60	59.2	60		60		60		
	授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	90	75.9	90		90		90		90		
	スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	90	83.2	90		90		90		90		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	65	67.7	80		80		80		80	
		達成状況の把握（％）	80	72.3	85		85		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	50	36	40	39.7	45		50		50		
英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	90	69.6	90		90		90		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	98.7	100		100		100		100
		公表（％）	50	52	60		65		70		75
		達成状況の把握（％）	80	79.3	85		85		90		90